

システム導入検討  
に最適です

# 導入用蓄電パッケージ



- スマートパワーマネージャ
- 2.5kW系統連系インバータ
- 1.2kW双方向バッテリーコントローラ
- 1.2kW PVコンバータ  
(オプションで2台<2.4kW>まで搭載可能)
- 2.4kW リチウムイオン蓄電池

※写真はオプションPVコンバータ搭載状態



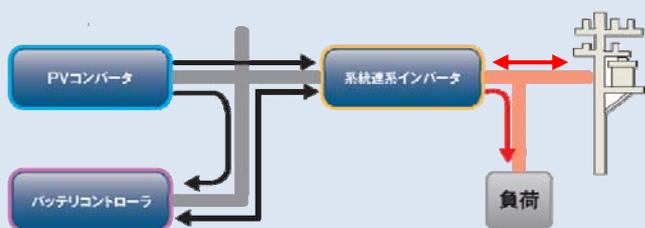
パッケージ  
で解決  
できる!

- ★商用電源へ接続したシステム評価ができない。
- ★HEMS/BEMS/CEMSの開発をしたいがエネルギー制御部分がシミュレーション環境しか無い。
- ★汎用的な通信機能が無いため新規開発が増える。
- ★系統連系/自然エネルギー/リチウムイオン蓄電池を全て搭載したシステム検討が難しい。
- ★ターゲットは中規模以上のため同じ構成での評価が行えない。
- ★電力や装置の動きのログ情報が取得できない。

## セット価格: ¥2,980,000

※価格には19インチラック、リチウムイオン蓄電池、簡易分電盤、ラック内ハーネスを含みます。  
※19インチラック、リチウムイオン電池形状、及び寸法は写真と異なります。  
※PVは含まれません。パッケージのみの組立、配線作業は価格に含まれません。別途、調整可能です。

系統連系インバータ/PVコンバータ/双方向バッテリーコントローラ/リチウムイオン蓄電池をセットにしたシステム導入検討用パッケージです。系統電力、自然エネルギー、蓄電池の間でエネルギー交換を実現し、スマートパワーマネージャによる見える化、任意の制御が可能です。



相互にエネルギー交換が可能



スマートパワーマネージャ画面例

※裏面に詳細情報を記載しています。

# システム導入検討 に最適です

# 小規模蓄電パッケージ

## エネルギーシステム導入蓄電パッケージ SeMS-04

装置サイズ	19インチラック EIA 19Uサイズ (W600×H1000×D700)	
重量	170kg	
蓄電池容量(BMU搭載)	2.4kWh	
スマート パワー マネージャ	制御電源 通信I/F	HVDC or 系統から給電 LAN/CAN/RS-485
	外部入出力	CTセンサー 5ch/汎用AD×3ch/ 接点入出力 各2ch
	制御	Webブラウザによる操作 制御コマンド 内部搭載専用アプリケーション
インバータ	最大電力容量	2.5kWh
	系統側定格	単相2線式 AC202V(50Hz/60Hz) /12.4A
	パワー回路方式	AC-DC間双方向PWM制御 PFC 搭載
	絶縁耐圧	1.5kV 60sec
	変換効率	潮流 93% 逆潮流 93% 自立インバータ 93%
	制御電源 表示	HVDC or 系統から給電 LED (POWER/RUN/ERROR)
バッテリー コントローラ	最大電力容量	1.2kWh
	バッテリー側定格	48V/25A (DC36V~66V)
	パワー回路方式	フルブリッジ 共振型 双方向
	絶縁耐圧	1.5kV 60sec
	変換効率	充電 95% 放電 95%
	制御電源 表示	HVDC or バッテリから給電 LED (POWER/RUN/ERROR)
PV コンバータ	最大電力容量	1.2kWh
	PV側定格	DC0V~320V/4.8A
	パワー回路方式	共振コンバータ MPPT制御搭載
	絶縁耐圧	1kV 60sec
	変換効率	95%
簡易 分電盤	制御電源 表示LED	HVDCから給電 LED (POWER/RUN/ERROR)
	表示LED 負荷 保護	系統連系/系統受電/自立 一般負荷、特定負荷に分割供給 電磁接触器、ブレーカ搭載
	冷却方式	強制ファン
使用環境	温度 5℃~40℃ 湿度 10%~90% (腐食性ガス、結露無きこと)	

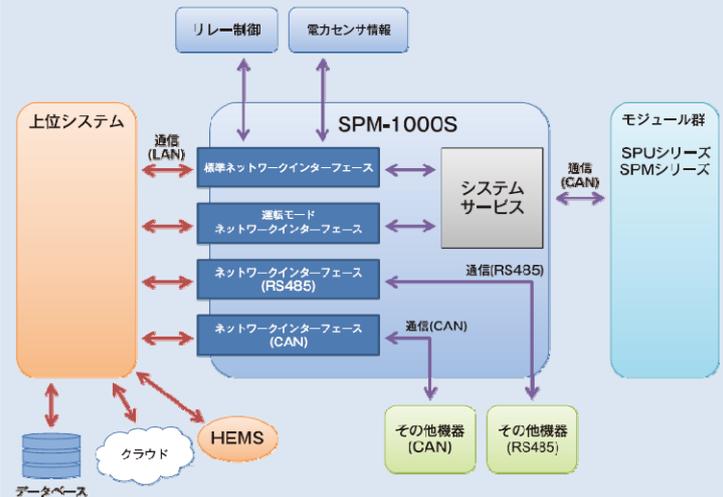


- ★蓄電池のサイクル評価。
- ★エネルギー需要予測、クラウドや上位システムの開発。
- ★分散電源システムの開発検討。
- ★蓄電池、自然エネルギーをミックスできるEMSの開発。
- ★デマンド制御システムの開発。
- ★ダイナミックプーライシングに対する自動制御開発。
- ★EVや発電機、電力のマルチエネルギーソースシステム開発。
- ★HEMS/BEMS/CEMSの開発。

パッケージ以外の  
容量/構成については別途  
ご提案が可能です。

### スマートパワーマネージャ

### SPM-1000S



スマートパワーマネージャ SPM-1000Sは外部システムと関係可能な通信I/F、センサーI/Fを搭載しています。

自律動作可能な分散電源により、規模に応じたエネルギーシステムを構築でき、SPM-1000Sの通信コマンドI/Fと導入パッケージを使うことで多種多様なエネルギーシステム構築の開発・導入検討が行えます。